子育て支援等に関する協定締結記念特別対談

㈲モーハウス代表 光畑 由佳 × 利根町長 佐々木 喜章

母乳育児用品（授乳服）をご提供いただいている、有限会社モーハウス（つくば市）と利根町の間で締結した「子育て支援等に関する協定」を記念して、「授乳服からはじまる子育て支援」をテーマに有限会社モーハウス光畑代表と佐々木町長が対談を行いました。

利根町妊娠・出産祝い品支給事業を開始

町では、令和２年４月１日から「利根町妊娠・出産祝い品支給事業」を開始しました。

この事業は、４月１日以降に出産を迎える妊婦の方に母乳育児用品（授乳服）を、お子さんが生まれた子育て世帯の方には、町内共通商品券をプレゼントする事業です。

安心して子どもを産み、育てる

人目をはばからず授乳できる服が欲しい

町長：授乳服を作るまで、色んな思いや試行錯誤があったと思うのですが、当時のお話を聞かせていただけますか。

光畑：きっかけは、自分が子どもを連れて電車に乗ったときに、子どもが急に泣き出してしまったことでした。

授乳をすれば泣き止むのは分かっているんですが、他の乗客の目もあって、家でするようにはできないんですよ。その時は結局、車内で授乳をしましたが、人目をはばからず授乳ができる服があればいいなと思ったんです。服だったら、自分で買うことができるし、街中すべてが授乳できる空間になりますよね。

最初は、世界のどこかに作っているところがあるだろうから、それを輸入すればいいかと思い、探したのですがいいのがないんです。日本にも穴が空いている服があったんですが、もう、胸が丸見えなんです。（笑）

これは、「自分で作るしかない」と思い、車内での出来事の2か月後には作って販売していました。

簡単ではありませんでしたが、試行錯誤しながら、作るところまでは割と順調で、そのあとのほうが大変でした。

常識にとらわれない考え方で自分を変える

町長：無いものを作るというのは、そこにある常識を変える大変さもありますからね。

役場でも、何かをやろうとした時に、簡単に「できない」と言うのではなく、「できる方法を考えてほしい」と言ったことがあるんですが、3年ぐらい経ちまして、だいぶ変わってきましたよ。

光畑：女性もそうなんですよ。お母さんたちがどうしても自分を変えることができない。自分一人で子育てや家事を頑張ってやってしまうところがあります。

実は、一番、授乳服を買わないのがお母さんなんです。そこにまわすお金があれば、子どものために貯金しなきゃいけないって思ってしまう。

授乳服をプレゼントされて、「これを着たら、あなたの生活変わるよ。子どものためにもお母さんが笑顔でいることって良いことなんだよ」と、周りから言ってもらうことによって、「女性たちってみるみる変われるな」っていうのをこれまでずっと見てきています。

地域の方たちと繋がりながら楽しく子育て

町長：利根町は、昭和60年に人口増加率が県内1位になるなど、人口が急増し学校も増設したプレハブで、子どもたちが勉強をするような時代がありました。平成2年に人口が約2万人に増え、そこをピークに人口が減少し、今では生まれてくる子どもが年間50人を下回っているんです。

光畑代表にご協力いただきながら、利根町を安心して子どもを産んで育てられる町にしたいと考えています。

光畑：例えば、授乳服をもらった方が、せっかくだから外で着なきゃもったいないよねと思って、外に出て「授乳してみたら簡単にできた」、「お出かけは不安だったけど、大丈夫だった」となると、自分に自信が生まれるんです。それで、どんどん外に出るようになって、こんなに子育てが楽しいんだと思うようになる。そのように、お母さんたちの「行動」と「気持ち」が変わることがすごく大事だと思います。

茨城県は、子育てがしやすいはずなんです。「子育てって楽しくできるし、地域の方たちやおじいちゃんおばあちゃんと、うまく繋がってできるんだよ」というところを地方都市から見せていきたいなって想いがあります。授乳服はその解決方法のひとつだと思います。

安心して子どもを産み育てる環境づくりを推進

町長：授乳服の特徴をお聞かせ願えますか。

光畑：わかりやすくいうと、特徴は、「見えないこと」と「赤ちゃんがすぐ飲めること」の2つです。

この授乳服のベースになったのは、着物なんです。日本の女性の着物は、脇の下、身八ツ口（ミヤツグチ）が空いているんです。脇の下が空いているから、赤ちゃんがすぐ飲める。ただ空いているだけだと胸が見えてしまうので、胸が見えないように、布を重ねて縫い合わせています。

この授乳服は、どなたが授乳しても抱っこしているようにしか見えない。それが、お母さんにも周りの人にも、負担をかけない方法かなと思っています。赤ちゃん全体を覆うケープと違って、赤ちゃんの顔を見ながら授乳できます。

町長：すぐ飲めるんですか。

光畑：1秒で飲めます。

普通の服だとボタンを外して、「ちょっと待っててね。ごめんね。」と言いながら服を開けて用意しますよね。でも1秒で、泣いたときや泣く前に、泣きそうなときにすぐ飲める。そこにすごくこだわって作っています。

それから、妊娠中から着ていただけると体が楽でいいかなと思います。授乳用ブラジャーが乳がんの方でも使えるくらい柔らかいので、家の中でリラックスして過ごせるように使っていただければと思います。

町長：これから、利根町も、子どもを産み育てやすい環境づくりを推進していきますので、ぜひ、ご協力をよろしくお願いします。

光畑：はい、ぜひ。

これを着たお母さんたちに、どんどん外に出ていただいて、周りの方たちと顔見知りになる。お子さんが、家族の子どもってだけじゃなく、地域の子どもになっていけるように、出来るだけ私たちもお手伝いしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

町で掲げる「子育て世代をとことん応援しています！」のスローガンのもと、モーハウスと当町は、出産に対するイメージ、産前産後のケアなどにおいて、安心して子どもを産み育てる環境づくりを推進していきます。

事業に関するお問い合わせ先
役場子育て支援課　子育て支援係
☎68－2211（内線142）

有限会社モーハウス代表取締役
光畑（みつはた）　由佳（ゆか）さん

岡山県倉敷市出身。お茶の水女子大学卒。自らの体験を機に授乳服の製作を開始し、1997年モーハウスを設立。授乳服の製作や販売のほか、「子連れ出勤」というワークスタイルを取り入れている。また、女性、企業、学生に向けての講演やイベントを多数開催。経済産業省中小企業政策審議会経営支援分科会委員や筑波大学非常勤講師などを務める。